

撮影手順

資料は一点一点すべてお客様自身で撮影して頂く必要がございます。また、画像でしかものを確認できないため、カメラレンズの性質による歪みや、太陽光や蛍光灯など撮影時の光の色や、カメラやモニターの特性による多少の色の差などはご了承願います。以下、注意事項と別紙の「ご訪問取材の事前準備について」に記載されている②～⑦の順に撮影手順を説明いたします。

注意事項

撮影前のカメラの設定について

お手持ちのデジタルカメラの写真のデータを最も大きなサイズ（jpeg 画像）に設定して撮影してください。スマートフォンでの撮影でも可能ですが、一度事前にご確認させていただきます。

撮影時の注意点

日中の明るい時間・場所で行ってください。

フラッシュでの撮影はなるべく行わないでください。

ピントがボケないようにしてください。

強い影が落ちて見えないところなるべくないように撮影してください。

基本的に画面から切れないように、なるべく大きく撮影してください

②～⑦資料別の撮影注意事項

②遺影絵画のお姿の元となる顔がしっかりと映っている写真

③故人様のご両親（ご家族）のお写真

これらの作画上重要な写真は、可能であれば 300dpi 以上でスキャニングしてください。もしご自宅にスキャナーなどが無い場合は、一枚ずつ大きく、真上から斜めにならないように撮影してください。光で反射して見えなくなったり、影が落ちたり、ピントがぼけてしまったりしないように撮影してください。また、お預かり可能な場合は、制作期間中お預かりし、完成後返送させて頂くことも可能です。

④描かれる場所（画中で故人様がいらっしゃる場所）の資料

なるべくお部屋の全体が見えるように撮影してください。近くて全体が収まらない場合は、数カットに分けて撮影して頂いても構いません。窓がある場合は窓からの風景も撮影してください。床も撮影してください。壁紙やカーテンなどがある場合はそれらも撮影してください。こちらも日中明るい時間帯にピントがぼけないように撮影してください。もし撮影不可能な場所の場合は、雰囲気わかるものを資料として頂ければこちらで創作いたします。

⑤故人様の座っていた椅子や使用していた机

こちらは可能であれば、正面・横・上の3方向から撮影してください。柄や形などに特徴がある場合は、そちらも別に撮影して頂けるとより再現度が上がります。机など大きくて動かせないもの場合は、正面、斜めなど写せる範囲で結構です。日中の明るい時に撮影してください。

⑥故人様の服装

明るい場所で、丁寧にしわにならないよう広げて頂いて真正面から撮影してください。後

ろも同様に撮影してください。柄がある場合はアップにして撮影してください。その他特徴的な部分がある場合は別に撮影してください。

⑦遺品の品

立体的なものは角度を変えて全体像がわかるように何カットか撮影してください。手紙や絵など平面的で小さなものは並べて同時に撮影して頂いて構いません。ただし、斜めにならないように真上から撮影してください。

その他のお願い

飾る場所の写真と寸法の計測について

遺影絵画を飾る場所の撮影をお願いしています。なるべく明るく、全体の雰囲気がわかるようにお願い致します。同時に、飾る壁面の寸法を実際に計測して頂きます。その寸法に合わせて絵のサイズについてお打合せさせていただきます。

不明な点は再度お伺いする場合がございます

どうしても作画上、資料として足りない点、不明な点などができてしまう場合がございます。その際にはどうぞご協力お願い致します。